

## 給湯器が店舗の水まわりの衛生管理に貢献

## Air Bubble Technology 搭載業務用ガス給湯器 4月1日発売

リンナイ株式会社(本社:愛知県名古屋市、社長:内藤 弘康)は、「Air Bubble Technology(エアバブルテクノロジー)」搭載・給湯能力24号の業務用ガス給湯器「RUXC-UE2403W(A)」を4月1日に発売します。

業務用ガス給湯器は、利便性・施工性・経済性に優れ、飲食店や理容室、介護施設など、店舗や小規模な施設で採用されています。

「RUXC-UE2403W(A)」は、微細な泡を水に溶け込ませる当社独自の「Air Bubble Technology」を業務用ガス給湯器として初めて搭載します。ウルトラファインバブル<sup>\*1</sup>発生装置を内蔵し、ファインバブル<sup>\*1</sup>を含んだお湯が厨房など水まわりの汚れを軽減する効果が期待できます。

「Air Bubble Technology」搭載の業務用ガス給湯器が、水まわりの衛生管理に貢献します。



Air Bubble Technology 搭載  
業務用ガス給湯器 24号

発売日 2026年4月1日  
希望小売価格 税込354,200円(税抜322,000円)

## 新商品の特長

- 当社初 Air Bubble Technology 搭載業務用ガス給湯器

## 《本件のお問い合わせ先》

リンナイ株式会社 営業本部 TEL 052-361-8211(代表)

(注)本資料に記載されている内容は発表日時点の情報です。  
ご覧になった時点で、内容が変更になっている可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

<sup>\*1</sup> ファインバブル、ウルトラファインバブルは、一般社団法人ファインバブル産業会(FBIA)の登録商標です。

## 新商品の特長

### ■ 当社初 Air Bubble Technology 搭載業務用ガス給湯器

ウルトラファインバブル発生装置内蔵

「RUXC-UE2403W(A)」は、微細な泡を水に溶け込ませる当社独自の「Air Bubble Technology」を、業務用ガス給湯器として初めて搭載します。ウルトラファインバブル\*1 発生装置を内蔵することで、飲食店の厨房や介護施設の手洗い場など、店舗や小規模な施設の水まわりの汚れを軽減する効果が期待できます。同号数の業務用ガス給湯器(RUXC-E2403W(A))と同じ外形寸法のため、取り替えも容易です。



水まわりの汚れを軽減

### ウルトラファインバブルの洗浄効果\*2

ウルトラファインバブル入りのお湯を使用することで、汚れの原因菌の減少や、汚れが付きづらくなることが当社の実験で確認されています。

ピンク汚れの原因菌を 66%減少\*3

水垢付着量 28%減少\*4

排水管汚れの残存率減少\*5

ピンク汚れの原因菌を洗い流しやすい

ミネラル成分の付着を軽減

排水管を清潔に保つ



ピンク汚れのイメージ



鏡に付着した水垢のイメージ



さら湯

ウルトラファインバブル



汚れの初期状態

詳しくは当社商品サイトをご覧ください。

ウルトラファインバブル給湯器 <https://rinnai.jp/ultrafinebubble/>

## ラインアップ

型式	RUXC-UE2403W(A)
希望小売価格	税込 354,200 円 (税抜 322,000 円)
外形寸法	H600×W350×D250mm
本体質量	26kg
号数	24 号
熱効率	95.0%
最高出湯温度	60℃ (75℃に設定できません)



(ご参考) 本製品等の画像データは、当社ウェブサイトよりダウンロード可能です。 <https://www.rinnai.co.jp/releases/>

\*2 特定条件下における洗浄効果であり、実際の使用環境における実証結果ではありません。実際の洗浄効果は使用方法によって異なります。

\*3 【実験方法】赤色酵母のピンク汚れ(Rhodotorula(ロドトルラ) sp. [KSS-0802])をサンプルに塗布し、10L/分、1分の条件で試験水を流水。その後、サンプルの残存菌数を測定。【実験条件】試験水:水道水、水温:40℃、環境条件:25℃雰囲気、水圧:200kPa、配管長さ:13A-4m。秦 隆志、西内 悠祐、松枝 和輝、青木 将二、古川 真也、雨宮 一幸、田中 千陽、久米田 裕子: Rhodotorula sp.の流水除去に与えるウルトラファインバブルの効果、日本家政学会誌、2024、Vol.75 No.1、p.17-23

\*4 【実験方法】排水管に疑似汚れを溜め、流量 7L/分で通水。【実験条件】試験水:水道水、水温:40℃、水圧:200kPa、配管長さ:13A-10mの条件で生成したウルトラファインバブル入りの水を使用。当社調べ。

\*5 【実験方法】ガラス板に約 1L/分の条件で試験水を流水。流水、乾燥各 1 時間を 1 サイクルとし、100 サイクル経過後のカルシウム付着量を電子ブローブマイクロアナライザーを用いて測定。【実験条件】試験水:硬度 100ppm、水温:40℃、水圧:200kPa、配管長さ:13A-3m の条件で生成したウルトラファインバブル入りの水を使用。大阪ガス・リンナイ共同調べ。